

地域の暮らしを話す会

令和6年度実施報告書



社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会



目 次

1. 地域の暮らしを話す会（住民座談会）とは	p 2
2. 令和6年度実施報告	p 4
3. 地域の暮らしを話す会の効果	p 6

【各地区の意見詳細】

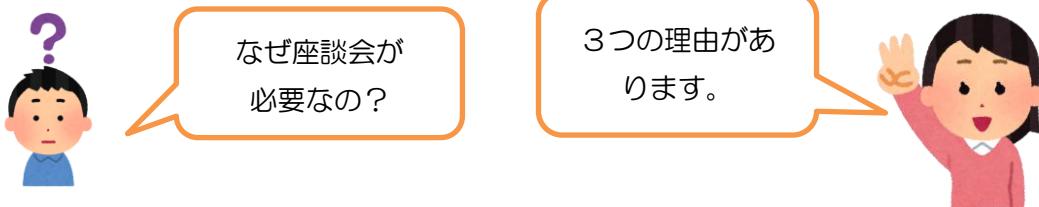
① 日 新 地区	p 8
② 佐野台 地区	p 11
③ 北 中 地区	p 12
④ 三 小 地区	p 15
⑤ 末 広 地区	p 17
⑥ 一 小 地区	p 20
⑦ 長 滝 地区	p 24
⑧ 上之郷 地区	p 27
⑨ 大 土 地区	p 29
⑩ 長 坂 地区	p 32
⑪ 日根野 地区	p 42
⑫ 南 中 地区	p 47
⑬ 中 央 地区	p 49
⑭ 二 小 地区	p 51

地域の暮らしを話す会（住民座談会）とは

1. 地域の暮らしを話す会（住民座談会）ってどんなもの？

→ 地域の困りごとを地域住民で話し合って把握する場です

 「住民座談会」とは、例えば「小地域」ごとに住民の皆さんのが1か所に集まって、『地域』の現状や課題（いいところや困りごとなど）を話し合って把握し、地域の将来像を考えあう場のことです。住民座談会で出たことは「地域福祉活動計画」に反映されるので、自分たちが「住み続けたい」地域の将来像を実現する手がかりとなります。



2. 住民座談会がなぜ必要な？

→ 豊かに安心して住み続けられる地域社会づくりのために

 最近、家族や地域住民間のつながりが希薄になってきたと感じることはありませんか。日本では今、こうした社会状況が進む中で、虐待・ひきこもり・暴力・自然災害の対応・自殺など、社会問題が多様になり複雑化しています。

私たち住民の多くは、地域で安心して豊かに住み続けられることを願っています。そのためには、だれもが地域から孤立することなく、いろいろな生き方を認め合い、つながりを持ちながら生活できる新しい地域社会をつくっていくことが必要です。

→ 地域のことは、地域で決めていくために

 「自分たちの生き方やそれに合った地域づくりは、自分たちで決めていくこう」といった市民活動の動きが、各地で活発になりつつあります。

新しい地域社会をつくるには、住民の皆さん自らが地域の現状を把握し、「住み続けたい」「住んでみたい」「住みやすい」地域の将来像を考え、それに向かって実践していくことが必要です。



→自分たちの地域の課題を改善しより良い地域をつくっていく



目的は「地域の福祉を推進していく」 誰もが安心して豊かに生活できる地域づくりを実現していくことにあります。地域のそれぞれの実情にあった福祉を進めていくには、まず身近な地域において住民の皆さん自らが望む地域をつくることが大切です。

引き続き地域の課題を確認し、地域の将来像を語り合う、その時々の時代にあった地域つくりのために「地域の暮らしを話す会」で住民参加の機会を中心として、住民の皆さん自ら主体的に参加するようすすめていきましょう。



■小地域って？

小地域とは「住民の顔がみえる地域のこと。その単位は、小学校区や町会・自治会です。地域の実情によって定めましょう。住民の皆さん自ら地域の課題を見つけ、解決していくことが可能な単位です。

★地域の暮らしを話す会は、それを行うことが目的ではありません。話す会を活かして、自分たちが住み良い地域、安心して暮らせる地域をつくっていくことが目的です。

参考文献：山口県社会福祉協議会、平成18年3月
「地域で住民のみなさんが住民座談会を開くための手引き」

令和6年度実施報告

1) 開催経緯・開催状況

平成27年に完成した「第2次泉佐野市地域福祉計画・地域福祉活動計画（いずみさのみんなの絆プラン）」において、「計画の普及をはじめ、地域から出される新たな課題を本計画見直し時に反映」するための場として、地域の暮らしを話す会が位置づけられることから、行政と社協、CSW（現在は地域型包括支援センター）が協働で継続的に取り組んで行くことになりました。

現在は、地域課題の共有や、地域の将来像を語り合う場として各小学校区単位で開催しています。

《令和6年度「地域の暮らしを話す会」 開催日時・場所・参加人数一覧》

地区	日 時	場所	人数
日新	12月16日（月） 18時30分～	ホテルニューユタカ	40人
佐野台	10月13日（日） 13時30分～	南泉ヶ丘町会館	4人
北中	11月19日（火） 19時30分～	鶴原町会館	17人
三小	9月29日（日） 10時00分～	旭町会館	37人
末広	1月19日（日） 10時00分～	東羽倉崎南町集会所	31人
一小	8月23日（金） 19時00分～	西本町会館	37人
長瀧	11月20日（水） 19時00分～	長瀧第一町内会館	26人
上之郷	11月22日（金） 19時00分～	上之郷コミュニティセンター	17人
大土	2月23日（日） 19時00分～	土丸町会館	22人
長坂	11月26日（火） 19時00分～	北部市民交流センター	31人
日根野	2月8日（土） 18時30分～	日根野公民館	30人
南中	10月23日（水） 19時30分～	南部市民交流センター	16人
中央	10月5日（土） 10時30分～	松風台会館	21人
二小	10月25日（金） 19時00分～	高松総合会館	26人

のべ参加者数 355人

2) 当日の内容

これまでの活動を振り返りながら、これから活動について考えることに重点を置いたテーマで検討する地区が多くありました。

《令和6年度の話し合いテーマの一覧》

地区	テーマ
日 新	大防災訓練の振り返り
佐野台	ゲーム大会の内容検討
北 中	今年の大防災訓練の取り組みについて教えてください
三 小	困りごと共有
末 広	民生委員、協力員担い手
一 小	私たちでできる災害の備え
長 滝	誰もが役割や居場所があって暮らしたい地域づくり
上之郷	一人暮らし高齢者や高齢者世帯への見守りと繋がりづくりについて考える
大 土	生活の困りごと、その時どうする?どうされた?
長 坂	各支部での取り組みについて教えてください
日根野	生活の困りごと、その時どうする?どうした?
南 中	私たちでできる防災や災害の備え
中 央	防災活動の情報共有
二 小	私たちでできる災害の備え

日頃から地域の福祉活動に取り組んでいる方々が、地域にどのような課題があると感じ、そのためにどのように取り組めばよいと考えているかを明らかにすることは、今後の地域福祉の充実を図っていくうえで非常に大切な情報になります。

似たようなテーマを選んでいてもその地域のもつ歴史性や地理的条件によって出席者の意見は異なります。

地域の暮らしを話す会の効果

地域の暮らしを話す会が、継続的に取り組まれている活動の課題共有や認識のすり合わせ、今後の方針性を話し合う場となった事例を紹介します！

笠松町支部福祉委員会 「私たちができる災害の備え」として地域の絆づくり登録制度の個別支援計画について話し合いました！

笠松町での地域の絆づくり登録制度

※地域の絆づくり登録制度

災害時に支援を必要とされている人の情報を地域で共有し、災害時の支援体制づくりを行う取り組みです。

課題認識や共有の場としての話す会

地域の絆づくり登録者情報のバージョンアップを進めていく中で、協力員や近隣住民含めた具体的な役割について話し合う場のひとつとなりました。



参加者の声

話す会を通じて、要介護状態にある方への避難計画を立てる事の難しさや課題を共有する事が出来ました。また、日頃からご本人を支援しているケアマネ・ヘルパーなど、専門職を交えての災害時の支援計画作成の重要性を改めて認識しました。

対話することの大切さ

住民同士で対話・共有をする事で、課題だけでなく、思いの共有にも繋がり、今後の活動の展開を考えるきっかけになった事例です。

地域活動を進めていく上で、継続的に「対話」を重ねることは大切なプロセスになります。

これまでの「地域の暮らしを話す会 実施報告書」に掲載した事例

(過去 5 年間を抜粋)

令和元年度 実施報告書	「担い手」に関する意見、たくさん出ました！ 長滝地区福祉委員会の年間を通した話す会（事業調整会議）の実施
令和 2 年度 実施報告書	地域での新たな話し合いの場づくり
令和 3 年度 実施報告書	コロナ禍における地域活動について～協力員・子育てサロン参加者の声を力タチに～
令和 4 年度 実施報告書	増えています！誰もが集まるコミュニティカフェ
令和 5 年度 実施報告書	末広地区福祉委員会と看護専門学校との協働実践

事例の詳細は、それぞれの年度の報告書をご覧ください

(泉佐野市社協ホームページに PDF 版を掲載しています) <https://izumisanoshakyo.or.jp/>

各地区でた意見の詳細

各地区における地域の暮らしを話す会でた意見
(ふせんに書かれた意見など) を、すべて書き出しました。

日新地区 地域の暮らしを話す会

日 時：令和6年12月16日（月） 18時30分～19時30分

場 所：ホテルニューユタカ

参加人数：40名（中庄10名、上瓦屋名11名、湊12名、泉陽ヶ丘7名）

テー マ：「大防災訓練の振り返り」

中庄支部

今年の大防災訓練の内容

- 各班長が防災タオルの確認
- アルファ米の試食
- 携帯用トイレの使用方法確認
- 風を防ぐアルミシートの使用方法確認

良かった点・改善点

〈良かった点〉

- 中庄自主防災会の団結力が上がった

〈改善点〉

- 中庄会館の内装改装

今後取り組んでみたいこと

- 消化器訓練
- 備品の整備（会議テーブル・パイプ椅子の設置）
- 防災ヘルメットを毎年25個購入

上瓦屋支部

今年の大防災訓練の内容

- 隣組組長が各家庭の安否確認（タオル掲示）
- 防災委員が絆登録者宅を個別訪問し安否確認
- 各垣内別グループに分かれ上瓦屋タイムラインについての検証と見直し

良かった点・改善点

〈良かった点〉

- 各家庭が防災タオルで安否を知らさせてくれた
- 町内会から回覧板で連絡しているのは良い

〈改善点〉

- 当日タオル出していない家がある（毎年協力しない家）
- 防災訓練に対する意識が薄いお宅が多い
- 回覧ではなく、緊急連絡放送をしてはどうか
- 絆登録者名簿の定期メンテナンスが必要

- ・大防災訓練の事前説明をきっちりしてほしい
- ・地域コミュニティを大切にし当事者意識を持つべき

今後取り組んでみたいこと

- ・災害時の避難場所の確認
- ・誘導指導者の選任
- ・歩けない人をリヤカーで運ぶ訓練
- ・災害発生時に町会から各家庭への連絡方法を考える
- ・防災訓練に参加してくれる人数を増やす工夫（さのポ配布など）
- ・町内会の入会率を高める活動をもっとすべき
- ・発電機の購入

湊支部

今年の大防災訓練の内容

- ・安否確認タオルだし
- ・防災ビデオ上映
- ・アルファ米試食
- ・ダンボールトイレ組み立て

良かった点・改善点

〈良かった点〉

- ・安否確認の連絡がスムーズだった

〈改善点〉

- ・参加人数を増やす
- ・防災に关心を持ってほしい
- ・若い世代にも参加してほしい

今後取り組んでみたいこと

- ・消火器の取り扱い
- ・AED 設置と訓練
- ・発電機の設置
- ・簡易ベッド、トイレ等の設置訓練
- ・自主防災組織の明確化と周知
- ・町内会と各種団体との連携強化

泉陽ヶ丘支部

今年の大防災訓練の内容

- ・ダンボールベッド、ダンボールトイレの組み立て
- ・防災委員長の講話
- ・安否確認
- ・組み立て式リヤカーの有効利用

良かった点・改善点

〈良かった点〉

- ・約 100 人参加 ・家族での参加が多かった
- ・子どもの参加が多かった ・安否確認のタオル出しが多かった
- ・自治会員以外の人も参加してくれた ・防災訓練後の片付けが良かった
- ・避難誘導がスムーズだった ・準備がスムーズだった

〈改善点〉

特になし

今後取り組んでみたいこと

- ・防災倉庫設置 ・地域の交流会 ・非自治会員の参加を増やす



佐野台地区 地域の暮らしを話す会

日 時：令和6年10月13日（日） 13時30分～15時00分

場 所：南泉ヶ丘町会館

参加人数：4名（佐野台1名、西佐野台1名、東佐野台1名、南泉ヶ丘1名）

テ－マ：「ゲーム大会の内容検討」

佐野台支部、西佐野台支部、東佐野台支部、南泉ヶ丘支部

これまでの経緯

毎年5月、佐野台小学校の体育館にて世代間交流としてゲーム大会を実施している

昨今の異常気象や災害を受け、住民に防災意識を持ってもらいたいという思いでゲーム大会を「防災」に寄せた内容で実施してはどうかと案が出る

各町の代表と関係機関で検討会議を実施する

意見出し

- ・今まで午前と午後にまたいで実施していたが午前中だけでよいのでは？
- ・自主防災会の活動内容が分からぬ
- ・佐野台小学校に避難してからの運営面の動きを考える必要がある
- ・防災士が町会（地域）を理解できていない
- ・あくまで自主防災会、市にどこまで協力してもらえるのかが分からぬ
- ・ゲーム大会実施には自主防災会、防災士の協力が必要
- ・避難所運営委員会の実施（立ち上げマニュアルはあるが組織化はできていないため）

実施できうこと

- ・防災クイズ（プロジェクターを使った○×クイズ）
- ・ダンボールベッドの組み立て（市に10セットくらいある）
- ・担架体験　・非常食の試食体験　・消火訓練
- ・テント組み立て　・折りたたみ給水タンク体験
- ・簡易トイレ組み立て　・防災借り物競争

北中地区 地域の暮らしを話す会

日 時：令和6年11月19日（火） 19時30分～20時05分

場 所：鶴原町会館

参加人数：17名（鶴原町：7名、下瓦屋町：7名、鶴原中央住宅2名、その他1名）

テ－マ：「今年の大防災訓練の取り組みについて教えてください」

鶴原町支部

今年の内容	
昨年に比べて参加された方が多かったと思います。もう少し地域の方に参加してもらえるようにしないといけないですよね	
タオルかけ訓練	災害時要援護者
防犯用具展示	消防と連携したい
消火器を使った体験は良かったと思いますが、半分くらいでも良かったかなと思います (消火器の)切り替え時期で良いタイミングであった	
「我が家は大丈夫です」のタオル掛け訓練	避難訓練と避難所開設（防災用品の展示と説明）
要支援者の安否確認	運動場にて消火器を使った消化訓練
不参加	今年欠席
北中小グラウンドで消化訓練（消火器20本）2025年までのものを使った。 (50基保管している) 10年使用期限がある（町内会の所有）	
感じたこと（課題や良いと思ったことなど）	
ビデオで阪神大震災の状況を確認した	
AM9:00～AM11:00までの短時間に避難所開設から要支援者安否確認をスピーディーに行えた	
又、実際の消火器を使い火を消す訓練も老若男女体験でき貴重な訓練でした	
わが家では隣組の人が今年度3件ぬけました。中には町内会のメリットを感じないという方もいてご近所さんとの関係が希薄になっていることを感じます。町内会に入るメリットがもっと分かりやすく知ってもらえば…と思います	
実際に消火器を使用することで防災への意識が高まったのではないかと思います	
今後やってみたい取り組み	
大きな災害があった時の地域の対応	消防署に依頼する
泉佐野市消防と計画、連携	ケガ人に対しての処置
処置方法を学ぶ	例年とは違ったこともあったみたいで参加したかった

次年度も多数の町民が参加できる様な内容を検討しています		
例) AED を実際に使用して救助の応急訓練（人工呼吸） ケガをした人への応急手当の仕方（三角巾で包帯を作る） 手軽に出来る応急処置の方法など住民参加でして行きたい		
避難所の設営を 5、6 年前に子ども達とやった。そろそろまたやった方がいいかなと思います		
避難所にサイレンの音と同時に移動する（小学校など）		
津波への知識がまだうすいと感じます。各災害への講義などをやることで、イメージが高まるのではないかと思います		
地域の絆づくり登録制度をご存じですか？		
はい：3	いいえ：3	未回答：1

下瓦屋町支部

今年の内容		
9：00 避難訓練開始の放送。黄色タオル掲示 隣組町さんの確認件数を町会に報告。第三中学校へ避難開始。武道場にて阪神大震災の DVD 放映、災害時の心得等のお話。参加者に粗品（携帯トイレ、笛、ごみ袋他）		
若頭会によるホットドッグの提供（参加者全員に） ふれあいイベントとして子ども会による芋ほり体験（子ども、つきそいの父母）		
町内班長が各家にかけてるタオル確認、報告 泉佐野三中へ避難、防災に関するビデオを見る		
町内の移動経路の確認		
子ども会による子ども達の交流会		例年通りでスムーズに移動できたと思います
三中の体育館で DVD の視聴がありました		青年団、若頭がWINナードッグを配布した
感じたこと（課題や良いと思ったことなど）		
もう一度阪神大震災のことを思い出しました。地域での見守りや情報の伝えあいなどつながりを大切にしていきたいと思いました		
もう少しちゃんの方々にも参加していただくように工夫が必要かと思いました		
危機感を持って行動していない		
今後やってみたい取り組み		
消火器の使用方法を学ぶ		消火器の訓練（20 分）消費期限が近づいていたのでそれが良いと思った
地震→津波		
地域の絆づくり登録制度をご存じですか？		
はい：1	いいえ：2	未回答：4

今年の内容	
<p>① 安否確認訓練（黄色タオル提出の把握集計）</p> <p>② 集会所における棟長・福祉部の協力員との合同会議を開き、高齢者住宅における安否確認の重要性、手順、その問題点（なぜなら一人暮らしの高齢者住民の方が半数をしめる）等を話し合い、終了後は炊き出し（アルファ米）の提供、粗品等を渡し、別室では一人用テント、簡易トイレの使用法処理の仕方等展示し終了しました</p>	
9:00～ タオル出てない所に棟長と協力員が訪問して集会に報告しました	
高齢者の安否確認	役員が消火器の使い方を確認
感じたこと（課題や良いと思ったことなど）	
棟長（13名）福祉協力員（13名）役員が安否確認という共通の課題を考える上でそれぞれが話し合いの場が出来たことがよかったです	
防災用品とくに便器使用方法、テント片付け（すぐ出来る）実際作業が出来た事がよかったです	
住民の皆様に体験がなかった。昨年はあつたのに	救命の訓練がなかった
半数が80歳以上→避難所へ来れるか、福祉と協力	
今後やってみたい取り組み	
集合住宅において少しでも安心出来る防災用品等の備蓄、実際の使用等出来るようにしたいと思います	
消火器の訓練を実施	
地域の絆づくり登録制度をご存じですか？	
はい：2	いいえ：0
	未回答：0



三小地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年9月29日（日） 10:00～11:00

場 所： 旭町会館

参加人数： 37名（旭町18名、新町13名、春日町6名）

テー マ： 『 困りごと共有 』

【自助】…当事者や家族で支え合う事

【共助】…近所同士で互いに支え合う事

【公助】…行政や専門職による支援

【共助より何か取り組めそうな事】

…みんなと話し合い、共助から取り組めそうな物を一つ選んでもらう

旭町支部

自助
・毎日の献立を考えるのがしんどい ・外出がおっくう
共助
・カフェに来る人が減った ・地域のイベントに参加するメンバーが少ない ・防災について話し合う、組織をつくっていく ・新規の町会を増やす
公助
・旧26号線の草、木が伸びており、見通しが悪く危ない ・カラスが多くゴミを荒らし散乱、糞がそこらへんにある ・近所の犬の糞がそこらへんにある ・海外の人が増えており、治安が不安 ・不審者がうろついている（コインランドリーが荒らされている） ・近所の空き家が気になる ・商店街に活気がない ・子育て世代の悩み事を聞き出す方法
共助より何か取り組めそうな事
・ゴミのポイ捨てが増えてきているので、住民同士が協力し清掃活動をおこなう

新町支部

自助
・町会の役員の後継者不足 ・ゴミの出し方 ・溝、歩道にタバコのポイ捨て
共助
・近くにスーパー、ハundredがなく高齢者が買い物にいけない

公助

- ・一人暮らしのゴミ袋を20㍑にして欲しい
- ・猫の糞がたくさんある
- ・夜間のバイクの騒音
- ・コミュニティーバスの本数を増やして欲しい
- ・空き家が多くそこから雑草が生えている
- ・植木が歩道から出ている

共助より何か取り組めそうな事

- ・猫、猫の糞も増えてきている為、猫に餌を与えないよう回覧板などで周知する

春日町支部

自助

- ・なし

共助

- ・ワンルーム賃貸が増え、地域と馴染めない方がおられる為、地域のイベント等を開催し交流を深める。　・若者が集まりやすいようみんなで話し合う
- ・次の担い手不足

公助

- ・ゴミ収集車のゴミ回収が早すぎる　・買い物難民が増えている
- ・道が狭く、デコボコしている為、手押し車や車いすでの移動ができない
- ・コミュニティーバスの巡回を逆回りでも実施して欲しい
- ・春日公園の跡地の利用（避難場所を建てて欲しい）
- ・子育て世代がいない　・商店街を活性化して欲しい

共助より何か取り組めそうな事

- ・空き家の場所を皆で把握していく

末広地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和7年1月19日（日） 10:00～11:30

場 所： 東羽倉崎南町会館

参加人数： 31名（東羽倉崎南町4名、東羽倉崎町3名、長滝第一住宅3名、新安松町7名、東羽倉崎自治会5名、羽倉崎上町9名）

テーク： 『 民生委員、協力員担い手 』

【現在の活動状況】

各支部の活動を知ってもらう

【地域の協力員が増える取り組み】

各支部協力員が増える取り組みをしているのか確認してもらう

【他団体への依頼】

各支部他団体への依頼を今後受け入れる方向なのかについて話し合う

【今後の取り組み】

今後協力員が増える取り組みをどのようにしていくのか

東羽倉崎南町支部

現在の活動状況
・コープ買い物 ・高齢者見守り活動 ・コミュニティーカフェ ・世代間地域交流イベント ・協力員の高齢化が進んできているので、次世代の担い手が欲しい
他団体への依頼
・看護学校への依頼 ・社協、包括連携呼びかけ ・民間団体との共催でイベント
地域の協力員が増える取り組み
・新規入居停止により協力員を探すのが難しい ・協力員同士の交流
今後の取り組み
・他町との連携強化 ・取り組みはマンネリ化する事なく新しい取り組みを進めていく ・地域企業と積極的に連携していく ・支援、協力してくれる団体、制度などを教えて欲しい ・日頃から協力員の声掛けをし、若い人が1名は入ってくれた

東羽倉崎町支部

現在の活動状況
・個別支援（安否確認）　・敬老のつどい　・秋のつどい
・コーパ販売　・高齢者熱中症予防
他団体への依頼
・未広子ども園と連携を今後していきたい（具体的には検討中）
・泉佐野市都市開発課と連携を取り空き家の管理等をしていきたい
地域の協力員が増える取り組み
・回覧による募集　・組長会での情報発信　・安全パトロール員との連携
今後の取り組み
・町会との連携を取り安全パトロール員の要請をしていく
・高齢者が増えている為、生協との連携を進め地域のニーズに合わせていく

長滝第一住宅支部

現在の活動状況
・ネット対象者に弁当配布
他団体への依頼
・企業連携の情報があれば教えて欲しい
地域の協力員が増える取り組み
・ボランティア活動の良さを説明していく
・若い人が協力してくれないので協力してくれそうな取り組みを検討する
今後の取り組み
・安否確認を兼ねてコーヒーを届ける
・買い物難民が増えてくると思うので、みんなで話し合い必要に応じてコーパなどを検討していく

新安松支部

現在の活動状況
・未広小学校世代間協力　・安全パトロール
・協力員が高齢化している　・誕生日プレゼント（お赤飯）
他団体への依頼
・予定なし
地域の協力員が増える取り組み
・町会入居者がすくない　・地域全体が高齢化している
今後の取り組み
・協力してくれそうな人に声掛けしていく
・出た意見を全体で振り返る場が欲しい

東羽倉崎自治会支部

現在の活動状況
・コープ販売　・カフェ　・春のつどい　・秋のつどい
・新年のつどい　・ネット対象者誕生日訪問（花束贈呈）
他団体への依頼
・どこの企業が協力してくれるのかが分からぬ
地域の協力員が増える取り組み
・協力員の活動を広報などで周知する
今後の取り組み
・協力員を増やしたいが、現状難しいので今のメンバーと細々していく

羽倉崎上町支部

現在の活動状況
・敬老の日にお弁当をプレゼント
・月1回ディスコン、カフェの開催
・年に1回昼食交流会
・協力員対象に研修会
他団体への依頼
・地元の老人ホームと連携を取っていく
地域の協力員が増える取り組み
・可能な限り声掛けをしていく
・協力員が気軽に住民へ福祉委員会の活動を話せる環境を作る
今後の取り組み
・地元企業との連携
・活動のPR
・関係者全員で協力員の確保に努める

一小地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年8月23日（金） 19時00分～20時00分

場 所： 西本町会館

参加人数： 37名（本町4名、元町6名、松原住宅5名、羽倉崎町4名、野出町5名、西本町5名、笠松町6名、松原町2名）

テーク： 『私たちができる災害の備え』

【近助】…近隣住民同士での助け合い、支え合い活動

【自助】…自分の力や同居家族同士で支え合うこと

【共助】…自助、近助、公助では対応できない支援活動

【公助】…行政や専門職（ケアマネ他）による支援等

☆町ごとで災害の備えをピックアップして、上がった意見を

自助・近助・共助・公助に振り分けました。

本町支部

近助

- ・町内にある溝の掃除
- ・避難場所のルール確認と周知徹底
- ・災害時の安否確認方法を事前に決めておく
- ・一人暮らし高齢者への声かけ（防災情報も伝える）
- ・年に1回大防災訓練は実施するも若い人の参加が無い
- ・災害発生時は一人暮らし高齢者やご近所さんに声かけ

自助

- ・非常食や水の確保
- ・無洗米を買いました
- ・防災グッズの確認
- ・家族で避難場所の確認

共助・公助

- ・避難ポスターを多国言語に翻訳することが必要
- ・泉佐野土丸犬鳴線が開通すれば避難ルートが確保できる
- ・町内に公共トイレを設置したい
- ・空地の活用を検討する

元町支部

近助

- ・災害時の安否確認・消火器点検、場所の確認
- ・災害時町会館の確認・名簿を町内会館に保管しておく
- ・町会に入ってもらひ日ごろから顔の見える関係づくりの構築
- ・日ごろからのご近所付き合い・支援依頼の具体的な方法
- ・自主防災会、町内会、福祉委員会の連携

自助

- ・身内にけが人はいないか・家族の安否確認

- ・どこへ避難するか確認・防災グッズを入れた袋の点検。場所の把握

共助・公助

野出町支部

近助

- ・日ごろからのご近所への声掛け
- ・近所同士で身内の怪我、情報交換
- ・一人暮らしの方への声掛け
- ・災害時の緊急連絡網

自助

- ・命を守ること
- ・非難先の確認 ※避難場所まで遠くいけない人がたくさんいる
- ・情報の集約
- ・避難経路の確保
- ・備蓄品の確認
- ・三日分の水、食料の用意
- ・非難道具を日頃よりまとめておく
- ・危険な場所の把握

共助・公助

- ・近くに避難場所がなく、避難場所を確保して欲しい
- ・海岸沿いに避難棟を設立して欲しい

西本町支部

近助

- ・隣近所に声をかける
- ・不明者の確認
- ・自宅避難者の把握
- ・元気な人はボランティアで動く
- ・近隣同士力フェなどで交流を増やす

自助

- ・自分の身を守る
- ・黄色いタオルを使用
- ・食料を備蓄していく
- ・防災グッズの準備をしておく。避難経路の確認

共助・公助

- ・情報共有

笠松町支部

近助

- ・絆リストの確認
- ・近隣への声掛け

自助

- ・備蓄、災害時必要な道具をそろえておく（水、米、靴下、スピーカー、毛布、発電機、医療品、ブルーシート、テレホンカード、ヘルメット、救命胴衣）
- ・避難所の確認
- ・台風に備えた庭の植木、ゴミの確認
- ・家族との連絡方法
- ・溝掃除

共助・公助

- ・避難所の事実確認 ・自主防災会での情報共有
- ・トイレの確保・TV、ラジオでの情報共有 ・市役所との連携
- ・避難所の立ち上げ ・消防、警察との情報共有

松原町支部

近助

- ・安否の確認 ・行政との情報交換 ・近所の声掛け
- ・リストの更新 ・サロンド松原 ・顔の見える関係作り
- ・災害のシミュレーション

自助

- ・身を守る ・火のチェック ・災害に備えての備蓄管理

共助・公助

松原住宅支部

近助

- ・隣の人の声掛け ・住民件数の把握
- ・歩行者困難な方を誘導する ・町民同士のつながり
- ・福祉委員会からの報告や組長さんの報告
- ・自治会への参加を促す ・日ごろから見守りし住民の把握をする

自助

- ・ガスの元栓を切る ・情報収集 ・玄関を開ける ・自分の身を守る
- ・緊急時の連絡方法 ・家族との連絡方法 ・家具固定 ・窓ガラスの補強
- ・非難袋の用意 ・避難場所の確認 ・家族の連絡先の確認

共助・公助

羽倉崎町支部

近助

- ・町内の見守り ・近所との付き合い ・井戸を掘る ・発電機を作る
- ・LINEでコミュニケーションを取る
- ・イベント等で仲良くなり日ごろからの関係性を構築する
- ・町内会に入ってもらう ・避難所を作る

自助

- ・個々に逃げる ・家族仲良く話し合いをしておく
- ・食料確保 ・荷物を整理しておく

- ・避難経路の確保
- ・一人暮らしの家を覚えておく
- ・車のガソリンを満タンにしておく

共助・公助

長滝地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年11月20日（水） 19時00分～20時00分
場 所： 長滝第1町内会館
参加人数： 26名（長滝西7名、長滝中7名、長滝東7名、新長滝5名）
テ - マ： 『 誰もが役割や居場所があって暮らしたい地域づくり 』

福祉委員会を認知してもらうための仕掛け・アクション
更女として子ども達と接する機会を持てた事！
今まで知らなかった事を知れた事！
民生委員になってこれほど一人暮らしのお年寄りが多いと感じました
町内会行事（予定）の回覧
町会への新規加入の推進
行事等を回覧板で知らせる
インスタを活用した情報発信
参加者が固定している
掲示板を見てもらう
町会への加入促進
新しいお家の方々との会話をする場があればよい
広報（工夫）写真を多用（臨場感を伝えるため）
インターネット・SNSを活用する
みんなが声を掛け合える地域
子供を大切にする地域
防災訓練で炊き出しをする
単身者（高齢者）がだんだん増えてきてるので病院や買い物へ行く手段がなく、チケット制で送迎をしている
クリングリンの企画
小さな地域で顔の見える地域
月一回お茶会をしている
粗大ごみを回収している
旧村と新興住宅とがイベントに参加して顔見知りになっている！
せまい地域なので近所の付き合いを大切にしている
協力員の人員不足
子供を大切に。子育てサロン・ハロウィン等

福祉委員会に参加してもらうための仕掛け・アクション
段々老人が増えて若い方にいかに参加して頂けるか考えどころです
小学校の行事に大勢で参加していただいている
仕事の友人以外に知り合いが増えました
子供の安全を地域で見守る

だんじり祭
各団体との交流
若い方の協力員を増やす
参加を誘う
行事の参加者が少ない。幅広い年齢層の参加が少ない
行事に参加してまず顔を覚えてもらう
一人暮らしの人と話す
親睦会が多い（若い人達）
各種団体と町会との良き関係性
子供会に入っていなくてもだんじりに参加出来る
小さい子供達にも楽しんでもらえる行事を企画・実施している
ハロウィン・もちつき等
幅広い年齢層が分け隔てなく交流している。10代～80代
少子化で子供が少なくなっているので地区全体で子供の安全を守る
誰でも気軽に参加できる行事を作っている
地域に防犯カメラを設置。安心安全の町に
催し物を多彩な物を作り色々な人に集まる機会を作る
ラジオ体操・エクササイズ週三回（体力保持）
声かけは対象個別にピラ配布をする
月一回市報を配る時に自治会ニュース（催し物）を回覧している
情報誌の作成
かけはしサロン送迎車用意
町内の行事に参加をすすめる
各月楽しんでもらえるような催しを計画
特技を披露してもらう
参加して頂きやすい楽しいイベントを開催する!!
「かけはし」では楽しんでいただけるように勉強にもなるように色々な催しを考えています！

福祉委員会に参画してもらうための仕掛け・アクション
赤ちゃんからご高齢の方までつながる仕組みがあると思います
働く女性が増えて引き受け手がいない。どう変えていくのか？
会社員としての負担が多い
やっぱり知らない人でも同じ町内だったらあいさつをする
子どもにあいさつをする
地区活動が広範囲すぎる（各町内会で活動）
各種団体での活動内容が分かりづらい
AEDの設置
子どもから大人までが一緒に楽しめるイベントを考えたいと思う

工具の貸し出し
子育て中の家族が参加してくれるようになしたい
クラブ活動が盛ん。手芸・園芸・古布リフォーム
若手会員の参加を増やすため親子合同行事を企画
駐車場経営者に対して空きスペースを活用する
回覧用自治会ニュース
対象者用福祉ニュース
層別用個別ニュース
キッズシネマの規模拡大と参加者を増やす
クラブや同好会を作つて交流を深める
高齢が進んでいて一人暮らしの人が増えて来ているので外に出てきやすい環境を作つてあげる
リユース捨てるにはもったいない誰かに使ってもらいたい。小さな時期はあつという間。(こんなのがあります) お互いに交換
友達が増える
知り合いの方も増える!! 勉強になります!!
世代を超えて顔見知り・つながりが出来た
知らなかった人とも話したりして色んな人の話も聞けて良かった
サロンに来ていただく講師の方との出会いが前向きに、自分が勉強する意欲につながる!!



上之郷地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年11月22日（金） 19時00分～20時00分
場 所： 上之郷コミュニティセンター 2階会議室
参加人数： 17名（机場3名、女形2名、上村5名、中村3名、下村2名、
郷田2名）
テー マ： 『 一人暮らし高齢者や高齢者世帯への
見守りと繋がりづくりについて考える 』

見守り対象者(一人暮らし高齢者や高齢者世帯)のお困りごと
家が広すぎて呼んでも聞こえていない
他人の家なのであまり踏み込んで入れない
出て来てもらう時に転んだりしないだろうか
インターホンで声が聞けたら安心するが、ないと心配
見守りしても返事がない→気になる

見守り活動をする上で大変であったこと
気づきを行動に移す判断が難しい
見守りの目を増やす→介護のサービス。緊急連絡先の確保が出来ない
身内が近くにいない
民生委員（男性）→女性だと気を使う
何度も声をかけても確認出来ない時
インターホンをつけていない
毎月来なくとも結構と言う所もある

見守り活動をする上で工夫していること
隣近所からの話
日常から隣近所を大切にする
顔を見ない日があればお互いに話題にあげる
LINEで連絡を取り合っている。動画を送っている
1人暮らしの第一連絡先は民生委員が把握している
民生委員さんが連絡を取り合っている。第一連絡先を知っている
近くに親族がいたら声かけしておくようにする

見守り活動で困ったときの相談先
民生委員・町会長→警察・市・包括
近所・子どもなどに連絡する
月1回は見守り→家族へ電話する

見守り活動で緊急時の対応・個人情報の取り扱い
連絡先の情報の入手
民生で連絡先を把握しているので民生委員に連絡を
見守り中の方の家族の連絡先をチェックしている
(本人) 目的がわからない→TEL 緊急通報装置の貸与。月 1000 円?
生死の確認!!
事前に対象者の方に呼びかけをして返事のない際、 鍵を壊す等の了承と承諾をとっておく



大土地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和7年2月23日（日） 19時00分～20時00分

場 所： 土丸町会館（大木12名、土丸10名）

参加人数： 22名

テ - マ： 『生活の困りごと、その時どうする？どうされた？』

大木支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

食品をはじめ買い物に困る

車がないとダメ

墓地を先々まで維持できるのか

自動車免許を返納した際、買い物などに不安がある

免許証返納。バスの時間帯、本数が少ない。行事企画時、車が使用できない
(事故時の保証)

田畠、山などを維持する為の後継者がいない

大木には公園がなく、運動が少ない

交通の便が少なくバスは1時間に1本しかない。車が乗れなくなったらどう
しよう！

高齢のため農作業が不安

車に乗れなくなると買い物・病院などに行けなくなる

田畠等の草刈りをする人がいない。(高齢者が増えて…)

バスの本数が減って利用しにくくなっている

子育ての悩み・困りごと

小学生の数の減→廃校が心配

何でも話せる友達・仲間を作るよう

保育所がない

井戸端会議で情報収集を

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

高齢化。若者転出。戻りなし→魅力ある地域とは？

生活文化の継承できず

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない

コンビニがない

移住者がほとんどいない

道路が少ない、狭い！

大木に病院・クリニック等の医療機関を設立

企業誘致→雇用が生まれ→人口増加→小学校廃校なくなる

その他住民の困りごと フリーテーマ
空き家が増えている
自然が豊か。交通の便が悪くない
空き家増。放棄山林。耕作放置→景観・生活安全不安→農業用水路の保守管も不安。高齢者の生死の確認できず
空地・荒地問題
空地・空き家が増えて来ている
空き家対策
あいさつの輪。子どもに負けずハキハキと大きな声で
地震の際、山崩れなどで孤立地域になるのではないか?
空き家の問題解決。隣組の付き合いが無くなった

土丸支部

高齢の親の介護や家族の困りごと
老老介護→本人は現状維持の方がいいと
病院への通院が困難。→手段を考える!!
ゴミ出しの分別が困る。(老人が多い)
家族の介護が大変→相談機関を紹介する
歩くのが不自由な方をちょくちょく見かけるが買い物などに不便を感じる
子育ての悩み・困りごと
子どもの送り迎えが大変。親が頑張りなさい!
子育て世代を増やして欲しい。
近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している
隣近所がない。人里離れた所に住んでいるのでゴミを出す時、カブでバス沿いまで
出しに行くのが大変です
重い物を持つのが大変なので買い物に困っている→宅配スーパーを教える
街灯を増やして明るくしてほしい
掲示板カバーがないので飛ぶ。雨風に困る
カラオケがなくなってさみしい→月に一度、定期的に開いてあげたい
共同アンテナをきってほしい。(一人暮らしテレビ観ない)→町会長に相談直接説明に行ってもらった
近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない
空き家が多くこわい!
コンビニも商店もなく車がないと不便。バスの便数も少ない。
コミュニティバスも来ない
村の中ではないが車道にゴミを車から捨てる人が多い。空き缶・ペットボトルなどが

側溝にたまっている。モラルのない人が多い

その他住民の困りごと フリーテーマ

ゴミ捨て場が遠い→もう少し増やしては？

バスの本数が少ない

長坂地区 地域の暮らしを話す会

日 時：令和6年11月26日（火） 19時00分～20時00分

場 所：北部市民交流センター

参加人数：31名（新泉ヶ丘：4名、泉ヶ丘：5名、下瓦屋南町：3名、鶴原北
住宅：0名、貝田町：4名、新家町：7名、鶴原東町：4名、
見出住宅：4名）

テーク：「各支部での取組みについて教えてください」

新泉ヶ丘支部

個別支援活動（見守り訪問）について	
【緊急時の対応】	
●緊急時に他の協力員、民生委員とどのように連携していますか。また、そのような事例があれば教えてください（プライバシーに配慮）	→緊急時は電話連絡で行います。住民さんの中で相手から電話があり、訪問した所、力ギがかかっていたので、住民さんが窓が開いている所を教えてもらう、開けることができた。普段から連携が出来ている
●緊急時に訪問した場合、自宅内にいるが返答がなく鍵が施錠され家に入れない場合はどのようにしていますか。また、どのように対応すればよいと考えますか	→別の住民さんですが、お訪ねした所力ギがかかっていたので窓をたたき気が付いてくれて、自分から力ギを開けてくれた。普段、耳が不自由な方なのでこれからも注意が必要です
●災害時、指定避難所に避難する道中が危険な場合の対応策はありますか	
→自治会は集会所か奥池グランドに集まるように話しています。足の不自由な人にとっては、学校までの避難は無理なので安全を考えて話し合っています	【不在時の対応】
●見守り訪問時に対象者が不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください	→第2日曜日の清掃の時、棟長さんが安否確認をしてくれていますので、確かめることができます
【見守り訪問の頻度と基準】	
●見守り訪問の頻度はどの程度ですか。また見守り対象者の基準の見直しが必要だと思いますが、どのような基準がよく、どう決めるのが良いか教えてください	→清掃の時に確認しますし、道で会ったりした時、お声かけをしています
【その他】	
●活動を支援している方の年齢はどれくらいですか、また仕事はされていますか	

→50代～70代です。仕事をされている方もいます
グループ支援活動（サロン、カフェなど）について
【広報・連絡手段】
●行事の連絡方法について手紙等、どのような方法で行っていますか。また、開催場所が狭く大々的なPRが難しい場合の効果的なPR方法があれば教えてください
→月一度モーニングカフェを行っています。事前に年間行事でお伝えしていますし、前日にはお声かけやマイク放送などでお知らせしています
【その他】
●福祉委員会の活動を外部に周知する方法について教えてください。また、新しい協力員を増やす方法や世代交代に向けた工夫があれば教えてください
→今考え中ですが、いいアイデアが見つかっていません
●見守り対象者で足等が悪く参加できない人の対応はどのようにしていますか
→同じ棟の方と一緒に来られる方もいらっしゃいます

泉ヶ丘支部

個別訪問活動（見守り訪問）について
【緊急時の対応】
●緊急時に他の協力員、民生委員とどのように連携していますか。また、どのような事例があれば教えてください（プライバシーに配慮）
→協力員の役員には電話やLINEで、他会員には連絡網があります。（民生委員は会員）
→会員家に、特殊詐欺らしい電話や訪問受け、屋根の修理と言って家族構成、間取り、他聞き出そうとしたり、早期に契約しようとした行為にあった時等
●緊急時に訪問した場合、自宅内にいるが返答がなく鍵が施錠され家に入れない場合はどのようにしていますか。また、どのように対応すればよいと考えますか
→救急車を呼ぶ、町内派出所に電話する
●災害時、指定避難所に避難する道中が危険な場合の対応策はありますか
→当地は高台で避難所までの道中危険な場合が多い。落ち着くまで自宅、集会所等で待機する
【不在時の対応】
●見守り訪問時に不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください
→メモ、名刺を入れる
→近所に確認する
グループ支援活動（サロン・カフェなど）について
【広報・連絡手段】

●行事の連絡方法について手紙等、どのような方法で行っていますか。また、開催場所が狭く大々的なPRが難しい場合の効果的なPR方法があれば教えてください

→連絡方法は年間スケジュールを配布しております。大々的にPRしたら会場の収容スペースがいっぱいになりますので基本的には口コミやスケジュール表等で連絡しております

→福祉活動支援金（5万円）利用

→定員35名、狭い場所、周知すると集まりすぎる、しかし口コミで来る

【参加者の集め方】

●サロンやカフェ、夏休みなどを活用した工作教室などのイベントで参加者を集めためどのような工夫をしていますか。また、成功事例を教えてください

→1年間は毎月開催時に写真を撮って、名前を書いて参加者の顔と名前を分かってもらう様に工夫しました。これはかなり好評でした

→内容を工夫し、皆が参加できるようにしました

具体例) 楽しい話題（健康力、おもしろ川柳等）、全員で歌を歌う、踊り、歌体操（一番好評なもの）

→おせちの食材プレゼント（3年前から）⇒新年寿プレゼントとネーミング

●お茶を飲みながらお話したい方が参加できるカフェ活動を開きたいので、ノウハウを教えてください

→参加者を一体化するためにはどうするかを検討した結果

- ・新しく入会、参加者を紹介し仲間意識を高める
- ・皆で歌を歌う。（歌詞カード準備）
- ・イベント、大正琴の演奏、ギター演奏、踊り等参加者、出演者を変える
- ・テーブル毎に店主が話をして皆の興味をひくようにしました

【その他】

●福祉委員会の活動を外部に周知する方法について教えてください。また、新しい協力員を増やす方法や世代交代に向けた工夫があれば教えてください

→福祉活動はやる気のある人が集まって楽しく活動するのが基本だと思います。特に高齢者には親切に接する必要がありそれを理解して裁く人を集める必要がある。仲間意識を持って一人ずつ地道に進めたら良くなるのかと思います

●見守り対象者で足等が悪く参加できない人の対応はどのようにしていますか

→泉ヶ丘の場合、店主の車で3人くらいは送迎することにしています。好評です。出来ればこのような協力者を養成したいです

個別訪問活動（見守り訪問）について	
【緊急時の対応】	
<p>●緊急時に他の協力員、民生委員とどのように連携していますか。また、そのような事例があれば教えてください（プライバシーに配慮）</p> <p>→緊急時に限らず新家町内で起こった出来事は、協力員相互で、また協力員と民生委員で共有するようにしている</p> <p>→役員間ではLINEを使うことも多い。プライバシーに大きく関わる場合は、固有名詞は頭文字のアルファベットにして、万一の情報流出に備えている</p> <p>→事例としては、民生委員がネット対象者を訪問すると精神的に取り乱していたことがあった。一人での対応が困難と思い、本人が頼りにしている別の民生委員に来てもらい落ち着かせた</p>	
<p>●緊急時に訪問した場合、自宅内にいるが返答がなく鍵が施錠され家に入れない場合はどのようにしていますか。また、どのように対応すればよいと考えますか</p> <p>→緊急時に限らず定期訪問で在宅しているのに返事がない場合は、玄関前で電話をかける。これまでそのような事例はないが、緊急性が高いと判断したときには、家族などに連絡し、場合によっては110番することにしている。※勝手に敷地内や家の中へ入れない</p>	
<p>●災害時、指定避難所に避難する道中が危険な場合の対応策はありますか。</p> <p>→前提として、まず協力員自身の安全が第一である。例えば「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針（令和5年、改訂第4版）では、過去の災害時に多くの犠牲者が出ていたことから、「自らの命、安全を守ることが最優先」とされている</p> <p>→ネット対象者については、居住場所の状況に応じて早めに自主避難を勧める。「高齢者避難」情報が発令されたときは、強く避難を勧める</p> <p>→避難が遅れた場合は、自宅の中の安全は場所に移動させたり、近所のより安全な建物に避難させたりする</p> <p>※新家町では、災害時の要支援者をデータベース化して、自宅付近の地図も載せた台帳を作成している。しかし、更新が遅れていること課題である</p>	
【不在時の対応】	
<p>●見守り訪問時に対象者が不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください</p> <p>→定期訪問（原則月1回、民生委員活動と兼ねる）では、時々の役立つ情報等を載せた「民生委員だより」を作成し、配布している。不在のときは、郵便受けに投函し、訪問があったことを知らせている。気になった場合は、後で電話するか、担当の協力員に最近の状況を確認している</p> <p>→協力員による訪問については、お誕生日訪問や福祉委員会行事の案内訪問が多く、不在のときは後で必ず訪問している</p>	

【会話の方法】
<p>●会話が進まない場合や、話しが長くなる場合、どのように対応していますか</p> <p>→定期訪問のときは、前述のように「民生委員だより」をもとに話をしている。直近の例としては「敬老会開催しました」「健康ウォーキングしてみませんか」がある。話が長くなる場合は、「次の方を訪問しなければならない」と伝えて切り上げることが多い</p> <p>→協力員による訪問では、日頃から何らかの交流があるので会話が進まないことはない。話が長くなることについては、問題があると思える場合を除き、世間話と捉えて適当に対応している</p>
【見守り訪問の頻度と基準】
<p>●見守り訪問の頻度はどの程度ですか。また見守り対象者の基準の見直しが必要だと思いますが、どのような基準がよく、どう決めるのが良いか教えてください</p> <p>→前述のとおり「定期訪問」は原則月1回。但し、夏については暑いため必要最低限としている。また、福祉委員会行事の案内と重なるときは、これに替えている</p> <p>→協力員による訪問についても前述のとおり、行事等の案内で訪問している</p> <p>→対象者は65歳以上で一人暮らしの方。働いている方が多い。基準を作り直すか?70歳以上にするか?</p>
【その他】
<p>●活動を支援している方の年齢はどれくらいですか、また仕事はされていますか</p> <p>→新家町福祉員会の場合は、若い人で70歳前半、多くは80歳代で高齢化が進んでいる。ほとんどが女性である</p> <p>→日常的に活動している協力員で職業を持っている人はいない</p> <p>●認知症の兆候が見られた場合、専門職につなぐ際の目安はありますか。</p> <p>→私たちでは、認知症かどうかの判断が難しい。ただ、会話や生活の変化に気づいたときは、包括支援センターなどに繋ぐようにしている</p> <p>→また、そのような人がいたときは、協力員間で情報を共有し、道で会ったときなどを含めて見守りを強化している</p>
グループ支援活動（サロン・カフェなど）について
【広報・連絡手段】
<p>●行事の連絡方法について手紙等、どのような方法で行っていますか。また、開催場所が狭く大々的なPRが難しい場合の効果的なPR方法があれば教えてください</p> <p>→行事の連絡方法については、案内リーフレットを手渡し、説明している。口コミも行っている</p> <p>→PR方法については、新家町の場合は町会館が広いので特に心配はしていない</p>

い。なお、私たちの行事は全ネット対象者向けが多いので、PR 対象を絞ることは難しいのではないか。方法としては、行事は数回に分けて開催するしかないとと思う

【参加者の集め方】

●サロンやカフェ、夏休みなどを活用した工作教室などのイベントで参加者を集めためどのような工夫をしていますか。また成功事例を教えてください

→新家町福祉委員会では、サロン的な活動として「おしゃべり会」を月に 2 回開催している。現在の募集方法は、おしゃべり会は定着していることもあり、主に口コミである。なお、当初は月 1 回であったが参加者が少ないとあり、第 2 回目を追加して元気塾の終了後に開催することとした。元気塾とセットにしたため、第 2 回の参加者がとても多い

→成功事例ではないが、世代間交流を兼ねて「夏休み工作教室」を開催した(2023 年)。通学児童見守りのときに案内チラシを子どもたちに配布した。申込みは、チラシに QR コードを付け、グーグル・フォームを使用した。参加者数は、児童 8 名、保護者 4 名、高齢者 5 名の計 17 名であった。夏休みであっても、子どもが学童保育や習いごとが多くかったためか、参加者が期待したほど集まらなかった

●お茶を飲みながらお話したい方が参加できるカフェ活動を開きたいので、ノウハウを教えてください

→高齢者が元気に長生きするためには、人との関わりが大切です。そのようななか、カフェ活動が大きな役割を果たします。ノウハウではありませんが、気軽に参加できる雰囲気づくりが一番だと思います

→しかし参加者の顔ぶれが固定されてしまい、なかなか新しい人が来ない。人と関わることが苦手な人に参加してもらうかが課題です

【その他】

●福祉委員会の活動を外部に周知する方法について教えてください。また新しい協力員を増やす方法や世代交代に向けた工夫があれば教えてください

福祉委員会の活動を広く知ってもらう方法

→「ほっとけん長坂」を積極的に活用する。各町の行事などを掲載するだけでなく、地域の課題、話題について積極的な取材も重要である

→町内会(自治会)の総会などで活動報告を積極的に行う。新家町では、総会議案書に 1 年間の活動内容を掲載してもらっている。また、「新家町福祉委員会 お知らせ」を作成し、ネット対象者に配布するとともに、町内会の回覧板で町民の方に回覧している。さらに町内会役員に福祉委員会関係者がなっていることから、町の役員会で必要な報告、相談を行っている

新しい協力員を増やす方法

→協力員になってもらうため、個別に勧誘しているが新しい人が増えません

→反対に、今の協力員が高齢化その他の事情で、活動が低下してきている

●見守り対象者で足等が悪く参加できない人の対応はどのようにしています

か

→新家町福祉委員会では「お花見会」「敬老会」など集まってもらって交流を深める行事を行っている。また「おしゃべり会」を月2回開催している。しかし、足等が悪い人や出不精の人は、なかなか参加してくれない。役員などで対応策を考えているが名案がない

現在の対応としては、

- 参加してもらえない人には、積極的に参加を働きかけている
- 参加されない人にも喜んでもらうため、「プレゼント訪問」に力を入れている
- ※足等の悪い人を自動車で送迎する方法もあるが、送迎に伴う事故のリスクや送迎サービスを継続できるかの問題がある

鶴原東町支部

個別訪問活動（見守り訪問）について

【緊急時の対応】

- 緊急時に他の協力員、民生委員とどのように連携していますか。また、どのような事例があれば教えてください（プライバシーに配慮）

→役員に連絡して協力していただく

- 緊急時に訪問した場合、自宅内にいるが返答がなく鍵が施錠され家に入れない場合はどのようにしていますか。また、どのように対応すればよいと考えますか

→玄関前から電話を入れる。コール音はするが応答なし、しかしその時玄関からかすかなうめき声のような反応が聞こえてきた。すぐに救急車を依頼する。娘さんの携帯電話にも連絡する。救急隊員が窓ガラスを割って室内に入る

【不在時の対応】

- 見守り訪問時に対象者が不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください

→メモを残す。電話を入れる。近所の方にも協力を得る

→家族さんに連絡する

→ケアマネ等に聞く

【会話の方法】

- 会話が進まない場合や、話しが長くなる場合、どのように対応していますか

→体調や困っていることがないかお聞きする

→イベント等のお知らせとお誘いをする

【見守り訪問の頻度と基準】

- 見守り訪問の頻度はどの程度ですか。また見守り対象者の基準の見直しが必要だと思いますが、どのような基準がよく、どう決めるのが良いか教えてください

→月1回訪問している
→対象者：一人暮らし高齢者、あまり外に出ない⇒何か催し物等伝える
【その他】
●活動を支援している方の年齢はどれくらいですか、また仕事はされていますか
→50歳代2人、1人は仕事をしている
→60歳代1人、仕事をしている
→70歳代2人、仕事をしていない
→80歳代1人、仕事をしていない
●認知症の兆候が見られた場合、専門職につなぐ際の目安はありますか
→鶴原東にはホライズンがありますので、ヘルパーさんやケアマネに連絡して対応しております
グループ支援活動（サロン・カフェなど）について
【広報・連絡手段】
●行事の連絡方法について手紙等、どのような方法で行っていますか。また、開催場所が狭く大々的なPRが難しい場合の効果的なPR方法があれば教えてください
→訪問してチラシを手渡してお説明する
→推進委員で班体制をとっているのでそれぞれ連絡している
【その他】
●福祉委員会の活動を外部に周知する方法について教えてください。また新しい協力員を増やす方法や世代交代に向けた工夫があれば教えてください
→鶴原東も推進委員や協力員になってくれる人が少なく困っています
●見守り対象者で足等が悪く参加できない人の対応はどのようにしていますか
→送迎が必要な際は出来る限り協力する

鶴原北住宅支部

グループ支援活動（サロン・カフェなど）について
【広報・連絡手段】
●行事の連絡方法について手紙等、どのような方法で行っていますか。また、開催場所が狭く大々的なPRが難しい場合の効果的なPR方法があれば教えてください
→回覧板、掲示板
【参加者の集め方】
●サロンやカフェ、夏休みなどを活用した工作教室などのイベントで参加者を集めためどのような工夫をしていますか。また成功事例を教えてください
→声掛け、マイク放送

貝田町支部

個別訪問活動（見守り訪問）について

【不在時の対応】

- 見守り訪問時に対象者が不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください

→メモ用紙を投函

→何度か電話、月1回訪問

下瓦屋南町支部

個別訪問活動（見守り訪問）について

【会話の方法】

- 会話が進まない場合や、話しが長くなる場合、どのように対応していますか

→月1回、市広報誌の話

→一人ぐらしの方、訪問

→何かあれば長話もとことんつきあう

グループ支援活動（サロン、カフェなど）について

【参加者の集め方】

- サロンやカフェ、夏休みなどを活用した工作教室などのイベントで参加者を集めためどのような工夫をしていますか。また、成功事例を教えてください

→週3、座談会やカラオケ

→自主運営、掃除等も

→電動車いすでの参加者も

見出住宅支部

個別訪問活動（見守り訪問）について

【不在時の対応】

- 見守り訪問時に対象者が不在の場合、どのように対応していますか。また複数回訪問しても会えない場合の対応も教えてください。

→近所の方にたずねる。

→3日間連絡とれない（親族なし）⇒警察、レスキュー隊を呼んだが家の不在（ベランダ空いてて入れた）⇒入院していた（夜中に自分で病院に行った）

グループ支援活動（サロン、カフェなど）について

【参加者の集め方】

- サロンやカフェ、夏休みなどを活用した工作教室などのイベントで参加者を集めためどのような工夫をしていますか。また、成功事例を教えて

ください

→2~3ヶ月前回覧で周知するが忘れる方もいる

→放送時うるさいという方も

●お茶を飲みながらお話したい方が参加できるカフェ活動を開きたいので、ノウハウを教えてください

→（開催するなら・・・？）カフェ 200円 広報や声かけ



日根野地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和7年2月8日（土） 18時30分～19時30分

場 所： 日根野公民館 3階多目的室

参加人数： 30名（東上3名、久の木2名、中筋3名、西出4名、野口4名、
西上4名、新道出2名、野々地蔵5名、俵屋3名）

テー マ： 『生活の困りごと、その時どうする？どうした？』

東上支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

自分の介護

住民に中間層がいない

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

外国人の人たちが夜中に歩き回るのが気になる

町内の道路でこぼこが非常に多い。（高齢者には危険）

道路でのこぼこが多くあるので老人の人たちがよく転んだりケガをしたりして困っています

東上として避難場所が遠すぎる

防犯灯が少ないので困っています

命を守る舗道がジグザグしている

その他住民の困りごと フリーテーマ

町会で役員になる人がいない

長生会に参加する人が少ない

町内でみんなが参加できるイベントを開催してほしい

川からの水漏れ

神社関係での困りごと

祭関係のこと

野生動物がいる

久の木支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

子どもが都会へ行き帰ってこない

高齢者ばかりの町になる

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

開発が多くなり交通費が増え困っている

猪が出て犬の散歩に支障が出る

防犯灯に羽あり。1日で解消。ある程度様子を見る

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない

庭木が越境し支障が出ている。自分では言いにくい
市役所がある程度対応してくれた

その他住民の困りごと フリーテーマ

ほとんどの困りごとはお金で解決できるのでは?

AIを活用

本当に困っていることは他人に言えない

中筋支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

親の介護

自分が高齢になって自力で生活が出来なくなった時にどうすれば良いか?

子育ての悩み・困りごと

孫の将来について。周りの子どもたちとのコミュニケーションがうまくいくか?

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

子どもの歩道。グリーンベルト

ゴミ集積場における鳥害対策

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない

排水路の掃除。インフラ整備

町会加入者が少ない

その他住民の困りごと フリーテーマ

地域の輪を強くするための対策

地域の絆を強くする対策

地域の災害対策について

西出支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

運転免許返納させたいが聞いてくれない

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

認知症が進行して1日に何度も電話がある。昼夜を問わない

子どもがいるが遠方でほったらかしにする

幻視・幻聴があらわれ戸外で叫んだり、壁をたたいたりする

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない

認知症で何もできないが介護サービスの導入を拒否

子どもが食料を送ることになっているが少ししか送ってこない

電話しないと送ってこない

ようやく訪問介護が入ったが掃除を拒否。入浴介助も拒否で入浴できない

その他住民の困りごと フリーテーマ

町内にバス停がない

学生が使用済みのマスクを捨てていく

町内にコンビニや商店がない

街灯の費用をすべて市に出してほしい

通行の邪魔になる木を切ってほしい

家の前が暗い

移動スーパーが必要

野口支部

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

隣人が猫に餌をやり住み着いているので何とか出来ないか？

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出していない

ゴミ捨て場に他所から指定袋に入れずに捨てに来る

川にゴミを捨てている方が多い

小学生低学年のいたずらが多いので困る

家族に認知症等の問題を抱えていても誰にも言えず（言わず）

抱え込んでいる家庭があるかもしれない

その他住民の困りごと フリーテーマ

買い物が不便→コンビニがあればいいのになあ

交通手段が問題→年を取ったら

子どもを持つ世帯と一般世帯との交流がない→核家族化

町内会員と非町会員の交流がないため情報格差・有事の際の対応が難しい

無関心で協力性が少ない

若い世代の考えが分からぬ

西上支部

高齢の親の介護や家族の困りごと

子どもの結婚相手

認知をしっかり認めサポートをしていくことで色々なサービスを使って助けてもらう

子育ての悩み・困りごと

子育て世帯は自分と子どもと二人だけという家庭が増えている

近隣住民の困りごと ※本人がSOSを出している

SOSを出してもらえるまでの経緯が大変困っていることがわかつても難しい

近所のお付き合いを大切にはしているが自分ごとになるとなかなかSOSは難しい

近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出していない
SOS を出してくれると相談に乗りやすいが、SOS が出ないとなかなか家に入ることが出来ない
町会に相談まで報告したくないと言って何とか家族で対応している
近隣住民について町内会に入ってもなく川掃除等にも一切出てこない
家用排水は川に流しているのに
その他住民の困りごと フリーテーマ
地域包括はケアマネ情報とかもう少しくわしく情報提供してほしい
仕事と町会とのバランス

新道出支部

近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出している
ご主人が亡くなり急に足（車）がなくなって自分で新道出カフェに行きたいのに行けない。それで医者から 2 輪ではなく 3 輪自転車にしなさいと言われた。しかし、3 輪自転車のレンタルはなく困っている
その他住民の困りごと フリーテーマ
防犯カメラを増やしてほしい
1 人暮らしで強盗がこわい

野々地蔵支部

高齢の親の介護や家族の困りごと
デイサービスに嫌がって行かない。どうしたらいい？
病院から施設に入りたいがダメに。一度退院しなければならない状況があるらしい
子育ての悩み・困りごと
子育て世代との近所付き合いが少なく悩みまで見えてこない
近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出している
近所の人が認知症で暴言を吐く
騒音のトラブルで相談に来られた（ネット対象者）
民生委員では対処できない。どうしたらいい？
近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出していない
本人に理解してもらえるような方法
その他住民の困りごと フリーテーマ
ネット対象者一人暮らしの為、話し相手がほしい。介護認定を受けていないのでその時はどうすれば良い？

俵屋支部

高齢の親の介護や家族の困りごと
認知症が進むのが心配です
子育ての悩み・困りごと
孫の保育園の抽選に外れて入れない
近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出している
町会行事の集まりが悪い
住宅の周りの田畠の耕作が出来にくくなってきた
町会の未加入
町会員の未加入、会員の減少
ゴミのポイ捨てが多い
近隣住民の困りごと ※本人が SOS を出していない
耳が聞こえにくくて困っています
ゴミ出し町会員以外のゴミ出しルールが守っていない
その他住民の困りごと フリーテーマ
新しいお家が増えていますがお名前とかわからなくて…



南中地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年10月23日（水） 19時30分～20時30分

場 所： 南部市民交流センター 1階会議室

参加人数： 16名（安松4名、岡本町4名、樋井東6名、樋井西2名）

テー マ： 『私たちでできる防災や災害の備え』

【近助】 …近隣住民同士での助け合い、支え合い活動

【自助】 …自分の力や同居家族同士で支え合うこと

【共助】 …自助、近助、公助では対応できない支援活動

【公助】 …行政や専門職（ケアマネ他）による支援等

☆町ごとで災害の備えをピックアップして、上がった意見を
自助・近助・共助・公助に振り分けました。

安松町支部

近助
防災訓練に参加する
どこに誰が住んでいるか知らない。→要支援者の把握
有事に備え、実行性の高い訓練を定期的に実施
防災グッズ何があるか知らない。→資材や備蓄品の充実
自治会、防災計画の策定。→避難所の整備
自助
自分の命は自分で守る
公助に依存しない気の持ち方
共助・公助
防災グッズ

岡本町支部

近助
声かけ・思いやりの心
近所とのつながりを持つ。→遠い親戚より近くの他人
日頃の顔の見える関係づくり。→日頃の関係が災害時に活ける
火災が発生し逃げ場がない。→逃げ道の確保
ルールを守る。ゴミ等。→日頃の行いが良好な地域の関係を構築する
自助
持ち出し物の整理。（薬・通帳・保険証）・米や水、食料の備蓄。（1週間分）
避難ルートの確認・家族との連絡手段
常に危機感を持つ。→まさかに備える気持ち。→自分の身は自分で守る意識を持つ
ガスの元栓、配電盤の遮断位置・方法

市民が賢くなる。SDGS を意識した生活→温暖化で災害が多発しているので
災害時こそ落ち着く。→たくましく生きる
上部からの落下物でケガをする。→タンス等の倒れ防止。(ストッパー)
共助・公助
情報弱者をなくす。→オープンな情報提供。→大阪防災アプリの啓発
企業のモラル向上。→SDGS 啓発活動(市報・講演会)

樫井西支部

近助
避難所の物品確認や災害備品の点検(発電機など)
会館で段ボールベッドや食料あり
個別支援活動の再開。→1人暮らしの人は優先で声かけ。→近所同士声かけ
避難訓練
自助
避難経路の確認
防災グッズを準備。→蓄電バッテリーあると良い(高い)
日頃から防災アプリを活用
共助・公助
河川の危険な場所の改善

樫井東支部

近助
近所の安全な家に集まれる所を作る。→安全な場所を確保(一旦町内で→点呼)
個別支援活動訪問&笑茶笑茶 Café。→隣近所との密接な関係作り
食料、水の確保
普段からのお付き合い。→地域の方とのコミュニケーションをとっておく
お別れ会、忘年会、新年会、親睦会、旅行。→防災訓練に参加する
自助
水。食品。電池。ヘルメット。→防災リュックに入れておく。→非常持ち出し品の点
地震に備えて家具等の固定。→家の耐震化
緊急時の家族との連絡方法を決める。→避難経路の確認。→集合場所・避難場所の確認
地震保険
共助・公助
災害用トイレの確保
樫井川の掃除

中央地区 地域の暮らしを話す会

日 時：令和6年10月5日（土） 10時30分～11時00分

場 所：松風台集会所

参加人数：21名（市場町4名、葵町4名、幸町3名、松風台3名、中町4名、日根野西3名）

テーク：「防災活動の情報共有」

市場町支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容

- ・避難訓練（町会館使用）
- ・消火訓練（町会館使用）

防災面で課題に思うこと

防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない

今後取り組みたいこと

防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない

葵町支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容

安否確認用タオルの確認（町会が主で実施している）

防災面で課題に思うこと

防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない

今後取り組みたいこと

防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない

幸町支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容

- ・安否確認
- ・南海トラフ巨大地震の映像視聴
- ・AED講習会
- ・炊き出し訓練
- ・防犯ブザー無料電池交換（幸町在住の小中学生が対象）
- ・水消火器による消火訓練
- ・避難所の備蓄品の点検

防災面で課題に思うこと

- ・指定避難所に登録している町会館の運用
- ・実際に地震が起きた際の町会員以外の方の対応
- ・備蓄品をそろえるための補助金が足りない

今後取り組みたいこと

上記の課題解決に向けての取り組み

松風台支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容
・安否確認用の黄色いタオルを出す
・班長が安否確認の結果を自治会長に報告
防災面で課題に思うこと
・他町の話を聞き、防災に向けての取り組みを考えないといけないと思った
・何かに取り組んでみたいとは思うが、言い出しちゃが全てをしないといけなくなるのが目に見えている
今後取り組みたいこと
・避難訓練　・炊き出し

中町支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容
・町会での安否確認　・避難訓練（2年に1回）
・南海トラフ巨大地震の映像視聴
・佐野記念病院（栄公会）の職員によるAED研修
防災面で課題に思うこと
町会館が届け出避難所になっているので今後の運営を考えていく必要がある
今後取り組みたいこと
避難所の運営について考える

日根野西支部

11/3 泉佐野市大防災訓練の取り組み内容
・安否確認用の黄色いタオルを出す
防災面で課題に思うこと
防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない
今後取り組みたいこと
防災訓練実施前なので今の時点では思いつかない

二小地区地域の暮らしを話す会

日 時： 令和6年10月25日（金） 19時00分～20時00分
場 所： 高松総合会館
参加人数： 26名（高松町3名、高松東6名、高松北4名、高松南3名、上町3名、大宮町2名、栄町2名、若宮町1名、大西町2名）
テーク： 『私たちができる災害の備え』
【近助】…近隣住民同士での助け合い、支え合い活動
【自助】…自分の力や同居家族同士で支え合うこと
【共助】…自助、近助、公助では対応できない支援活動
【公助】…行政や専門職（ケアマネ他）による支援等
☆町ごとで災害の備えをピックアップして、上がった意見を
自助・近助・共助・公助に振り分けました。

高松町・上町支部

自助
<ul style="list-style-type: none">・防災グッズを家庭で用意しておく。（ヘルメット、ガスコンロ、水、トイレットペーパー等）・家族で災害時の連絡方法を決めておく・火災報知器の確認をしておく
共助
<ul style="list-style-type: none">・近所の一人暮らしの高齢者に声掛けをする・日ごろより災害時になにが必要か話し合いをする・近隣に防災意識を高める取り組み（話し合い）をする・防災の話し合いの場を提供しても参加者が集まらない・各家庭の家族構成を把握したいが集まらない・若手不足
公助
<ul style="list-style-type: none">・連絡網の把握・住民の把握・指定の避難場所まで遠い・津波の心配はあまりないが、高い所（マンション）からの落下物が怖い・市が管理しているかご公園が市の中心で広い公園になっているが、日ごろはほとんど利用する方がいないので災害に活用できるように改善して欲しい・市で災害に重点を置いている所が分かりにくい・町内を流れる川があふれないか心配

高松東・大西町支部

自助
・災害時の家族と連絡の仕方 ・災害について話し合う場がない
共助
・災害について話し合う場がない　・溝にゴミがたまっている ・障がい者の把握　・二小の門を開ける人がいない ・溝に蓋がなく雨の日が怖い　・防災倉庫になにがあるかしりたい ・緊急救助態勢 8 時間以内に受け入れるか分からず
公助
・避難所の分散が必要　・佐野工科の裏門が空くのか ・炊き出しの道具が足りるのかわからない
共助よりなにか 1 つ取り組める事
・若手の人員態勢を整えるため、楽しいイベント（焼肉）などで交流の場を作る。また防災に特化した組織を作る

高松北・大宮町支部

自助
・個人のお知らせグッズ　・非常食の準備 ・家族と避難場所の共有　・家族の安全を確かめる
共助
・近所との連携を密にする　・日ごろからの声掛け ・近所の安否確認　・独居の人たちの安全を確かめる ・連絡網を作成する
公助
・連絡整備を調べる　・情報収集、伝達の仕方の共有 ・防災整備場所が最適か確認する ・一人暮らしの状況が民生委員しかわからない ・飲料水の確保をどうするか、井戸水の場所の把握
共助よりなにか 1 つ取り組める事
・人員の配置を調べる　・防災用具の準備

高松南・栄町・若宮町支部

自助
・安否確認方法を確認しておく　・防災訓練に参加する ・安全タオルの掲示を習慣づける　・家具・テレビの転落、落下防止 ・防災グッズを各自で揃える　・水の確保

共助
<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所を皆に周知する 　・災害時自身の畠から野菜を配る ・家具の固定の希望があれば手伝う 　・町会のイベントで交流を深める ・平時から顔の見える関係作りをおこなう
公助
<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な方の把握（絆） 　・支援が必要な方の事前チェック
共助よりなにか 1つ取り組める事
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をする 　・非常時の対策を日頃からおこなう ・避難場所の確認、組織作り 　・非常食など備蓄倉庫を準備する ・独居老人に付き添って避難する

作成者：社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会
作成日：令和7年8月

この冊子は、《泉佐野市安心生活創造推進事業》に基づく補助金によって作成しました。

